楽しく美しいまちづくり通信…㉘

奥州南部糠部郡三十三番観音
誓願成就と観音信仰

観世音菩薩は、人の世を自由自在に見通すことができる菩薩（尊者）という意味で、梵語の「アバロキティジュバラ」の漢語です。俗に、「観音」とも略します。

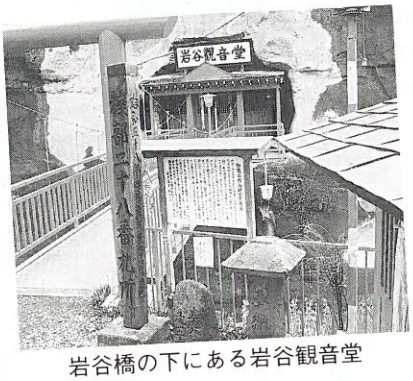
観音様は現世において、衆生の危機や要求に応じてさまざまな姿に変化（六観音・三十三観音）し、救ってくださるという信仰のもと、多くの人に親しまれ、暮らしの中に息づいてきました。

観音めぐりといえば、西国三十三か所観音巡礼が有名ですが、これは奈良時代の初期の頃、大和の国の徳道上人によって始められたといい、近畿地方の寺々の中に三十三か所の霊場が設けられていました。

巡礼は、誓願の成就、霊験や恩寵が得られるように祈願するため霊場をめぐることで、参拝したときに押してもらう「印」は、徳道上人が埋めた宝印を象徴するものです。

また、霊場を「札所」と呼ぶようになったのは平安時代中期以降のことで、歌一首（御詠歌）を木札に記し、霊場ごとに納め歩いたのが始まりです。

延暦十七年（西暦七九八年）、坂上田村麻呂が京都清水寺に観音像を納め、東北蝦夷征伐に出かけたことにより、この地方（糠部郡）でも観音信仰が普及したと伝えられています。



岩谷橋の下にある岩谷観音堂

二戸市にも多くの観音信仰の碑が残っていますが、最古のものは御返地似鳥戸ノ口のもので「元文五申閏七月九日」の銘があります。

市内には、小祠や屋敷神の中にも観音を祀っているところがありますが、石碑に刻んで残っているのは全部で九基です。

また、当地方で有名な観音巡礼は「糠部三十三番札所」で、寛保三年（西暦一七四三年）に八戸天聖寺の則誉守西上人が決拓したものです。

二戸市では、岩谷観音（第二十八番）、朝日観音（第三十番）の二か所が選ばれていますが、似鳥の八幡神社の観音堂を第三十二番として拝んでいる人もいます。

岩谷観音（第二十八番）は、

「たち寄りてあまの岩戸や福岡の　いわ屋の仏おかむ頼母子」

と詠まれているように、白鳥川の崖中に観音堂があります。

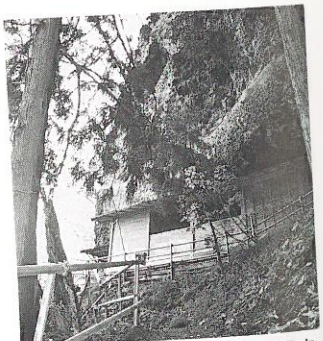
百年に一度のご開帳といわれるご本尊を拝むことは、なかなか困難なことです。

また、

「朝日さす夕日かがやくいしきりてら　岩屋の下も普明諸世間」

と詠まれた朝日観音（第三十番）は、朝日が煌々とあたる山腹の洞窟の中にあります。

ご本尊はご開扉することはありませんが、四季を問わず参詣する人も多く、馬淵川を眼下に、市内が一望できる景勝の地です。


大きな岩の中にある朝日観音

その他、巡礼として「四国のお遍路」がありますが、これは今から約千二百年前、弘法大使が四十二歳の時に衆生の災難を除くために開いた霊場で、後に高弟が遍歴したのが始まりと伝えられています。

人間には煩悩が八十八あり、霊場を八十八か所めぐることにより煩悩が消え願いがかなうという言い伝えがあり、お順路さんは、白装束に手甲、脚絆で菅笠をかぶって札所を訪ねます。

常に弘法大使と一緒という意味の「同行二人」と書かれた金剛杖は、弘法大使の分身で、心の杖となるそうです。

また、六月二十日に、小原市長をはじめ関係者約二百人の出席のもと、「大志田ダム定礎式」が盛大に行われました。詳しくは次号の国営事業レターで紹介します。

連絡先…東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所
☎ 32―2121

みんなのダムを知って！

二戸市誘致企業等連絡協議会が大志田ダムを見学

五月二十三日、二戸市誘致企業等連絡協議会の皆さんが大志田ダムを見学しました。

一行は、初めて見る現場の広大さに感心した様子で、ダムのコンクリートの打ち込み方法やダムに貯められる水の使い道などについて、熱心に工事担当者へ質問していました。